

ふまゝし　市きうあは
白くおに　可なりとて
あゝあても多しとて
物より老たしく抱擁に
事あるうらやみ撫に
心快ちる故大衆にお
すむし
○老たしくもあつりな
は作れどあらよ子と
折あやむるや　高きに
少なきも不^不かし言
幼懐中、あし　金ある
あゝ女持し袖に襟用
歩雨にあたりたる身を
は抱え南村石止にふるな
雲ノ芳と不心得具は傳
石の橋上あひくる優席

石印鳩ト云々々々
村中村角は戸数
ある所一む本の
老人一も二五の
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事
うう一とある事

一む本の

ある

たさる

ある

丁巳年

古

たさく

ありけり付成なる遠く病
 十はわふらりてふふ
 其のふふふふ地ふ得
 其ふふふ折ふあ港
 けりふふふふ下ふ
 其ふふふふふふふ
 其ふふふふふふふ

一
 東
 京
 大
 學
 文
 學
 部
 藏
 書
 印
 金田